

社会福祉法人 高水福祉会

平成30年度 事業報告

【掲載順】

- 1, 法人事務局
- 2, 常岩の里 ながみね
- 3, のぞみの郷 高社
はるかぜ
グループホーム
- 4, ふっくら工房 ふるさと
- 5, 発達サポーターズ ねくすと
- 6, ぱれっと
- 7, やまとサービスセンター
- 8, サービスセンター りんく
- 9, 未来工房 つむぎ

30年度 法人事務局 事業報告書

●30年度 事業計画と取り組み

【役員会等の実施】

- ① 理事会
- ② 評議員会
- ③ 担当部課長会議
- ④ 法人内部監査

【事業計画・予算執行状況確認】

一拠点 3 か月に一度の頻度で確認・軌道修正に繋げる。

【経営推進会議開催】

法人中長期ビジョンを共有し方向性を合わせ、数
字的裏付けをおこなう中で時代に即したサービス
提供に努める。

【広報活動の継続】

新聞折込及び情報発信サイトを活用し、正規職
員求人を充足させる。
また、法人ホームページを組織編成に併せた内
容にするため、内容を検討する。

【人財育成の強化】

新人事制度の内容確定及び規程の作成

【総務部(財務経理課)の体制強化】

人員配置等を効果的に行い、サービスの質を保
ちつつ収支を安定させる基盤を作るため、指定
申請事務及び請求事務に当たる人員を補充。

●30年度 経過と成果

【役員会等の実施】

- ① 6/ 4、8/17(臨)、11/ 4(臨)、12/17、3/20
- ② 6/18、12/27、3/27
- ③ 5/31、12/26
- ④ 5/21

【事業計画・予算執行状況確認】

試算表を基にあがたグローバル税理士法人による会
計指導を毎月実施。数字が語る計画の執行状況
を見る視点が培われた。

【経営推進会議開催】

月 1 回程の頻度であがたグローバル税理士法人が所
長会議に加わり、27 年度作成した中長期ビジョンを
再確認し各事業所のアクションプランに繋がるよう
な話し合いをし、30 年度 10 月を目標とした法人組織改
編の基礎をつくることができた。

【広報活動の継続】

- ① 試験回数:3 回(前年度同様)
- ② 周知方法:新聞折込広告、法人ホームページ、
新卒採用専用サイト、合同説明会他

※6/16 は新卒者のみを対象

| | | 採用 | 正規 | 臨時 |
|--------|----------|----|-----|-----|
| 1 次試験日 | 受験者数 | 新卒 | 2 名 | 0 名 |
| 6/16 | 1 名(新 1) | 転職 | 1 名 | 0 名 |
| 8/18 | 4 名(新 3) | | | |
| 10/ 6 | 3 名(新 1) | | | |

【人財育成の強化】

PJ に顧問社労士を迎え入れ、年度内に規程の完
成、及び職員への説明会(事業所ごと)を実施した。

【総務部(財務経理課)の体制強化】

法人組織改編と併せ、課長補佐(副所長格)を1名
増員。予算執行状況の把握から次年度予算立てに
於いて、チェック体制の土台ができた。

平成 30 年度 常岩の里ながみね 事業報告書

●平成 30 年度 事業計画と取り組み

～めあて～

【地域の資源としてより一層サービスを還元していく。具体的な一つとして、従たる事業所の新規開設、地域貢献を柱に据えた部署の新設をおこなう】

【施設入所】

定員 40 名、現員 42 名

「一人一人にとって楽しい暮らし、安全・快適な暮らしの提供」

- ①毎月の、お風呂 day、おやつ day
- ②日帰り外出の実施
- ③(新)ひだまりのサービス提供を見直し、GH 移行を強く意識した支援 とする
- ④(新)安全でゆったりした入浴のため(土)午後を入浴時間として提供 する

【生活介護】

定員 60 名、現員 65 名

「活動を通して、『私の可能性』を広げよう！」

- ①ながみね本体事業
- ②従たる事業所”ほくずい”(定員 10 名)
- ③(新)従たる事業所”新規”(定員 10 名)
※別紙
- ④(新)地域交流部門の新設

【新】【共同生活援助】

- ①岳北地域 6 ホームを順次、合併
- ②6 ホームメンバー数 計 30 名

【日中一時・タイムケア】

ご希望に沿い、一時的なお預かりの実施

【指定特定・一般相談支援】

計画相談、地域移行・定着の支援の実施

【短期入所】

定員 3 名

- ・定期的なご利用を中心に、レスパイトとして実施していく
- ・(新)フェイスシートと連絡ノートの作成

●平成 30 年度 経過と成果

【施設入所】

現員 38 名(男性 20 名、女性 18 名)、平均年齢 59.6 歳

新規入所 2 名

死亡 2 名

移動 2 名(GH)

39 室 41 名(2 人部屋は 2 室)

- ①季節を感じるお風呂デイ(シャクヤク風呂等)等
- ②年 4 回の選択日帰り旅行と共に個別の外出支援の充実
- ③地域生活への移行をめざし、ひだまりで生活されている利用者の、生活の見直しを実施→移行者 2 名
- ④(土)午後の入浴支援の実施については、最低 2 名の 人員確保が難しい場合が多かった

【生活介護】

①・ながみねへの通所ご利用

- ・新規契約 5 名
- ・GH より 13 名
- ・ご自宅より 13 名
- 計 26 名

・ながみねより他事業所への通所

・8 事業所 18 名

・本体敷地内の職任分離も進める

②ほくずい…平均 18 名利用となり、活動が滞ることも
→ときわひろばへ分散

③ときわひろば…定員 10 名、11/1 開所
別紙

④地域交流部門

小学校との継続した交流や近隣の JR 駅舎掃除、余暇ボランティアさんの参画等、外部とのかかわりを 中心に活動を組み立て実施

【共同生活援助】

1 月…ときわ・下水沢・戸狩の各ホームの移管

3 月…たまちホーム移管

計 4 ホーム、利用者数 17 名

【日中一時・タイムケア】

・8 名のご利用

・うち入浴サービス時のご利用 3 名

→週 3 回の入浴サービスに合わせて(3 名)

【指定特定・一般相談支援】

・相談員 2 名

・地域定着推進員は必要に応じて任命

【短期入所】

・3 室、延べ人数 56 名、年 276 日

・ご家族支援としての定期レスパイト

・将来を見据えた家以外でのお泊り体験

【その他】

・事業所からの虐待通報案件…0 件

・個別支援計画…

個別支援計画作成会議の開催。複数の職種の視点から計画案を練ることができた

30年度 のぞみの郷高社 事業報告書

| | |
|--|---|
| <p>事業計画と取り組み</p> <p>【施設入所支援事業】 一般的な生活と何一つ変わらない生活を送れるようにする。また、入所利用者が安心して地域移行できるよう支援する。</p> <p>【生活介護事業】 一人一人に合わせた自己選択、自己決定を尊重した活動を提供し、充実感、達成感を持つ事が出来るよう支援する。</p> <p>【従たる生活介護事業所】 ○ま～ぶる 「さをり織り」を中心にやってみたいというニーズを大切に、どんな障がいがある方でも織りができるよう、治具等の工夫をし、支援する。 ○たけはら 日々の生活動作をリハビリとして考え、個々の健康状態、心身機能、動作能力に合わせ活動メニューを提供し、楽しみや自己肯定感を高められるよう支援する。 ○Siosai 自閉症や等認知の特性・障がいに配慮が必要な方々が安心して活動し、自己発揮、自己実現ができるよう支援する。</p> <p>【短期入所事】 地域の障がいを持つ方に一時的な住まいの場と必要な支援を提供する。</p> | <p>30年度 経過と成果</p> <p>入所定員 35 名 入所現員 28(29)名 ※5月～12月末日まで29名 生活環境 1人部屋 22(23)名2人部屋 3 名 余暇外出支援 夕方や休日における買い物・外食 26(27)名の方が月 1～2 回実施(3月現在) 一人平均(年間) 17 回(2 名未実施)</p> <p>生活介護定員 60名(従たる事業所含み) 登録者数 83名(前年比 2名増) 現地選択活動を含め、生産活動等様々な活動メニューを提案し、個々のニーズをを探り、活動の幅を広げた。 (現地選択活動) 年間実施回数 144回(3月現在) (作業賃金) 缶作業 39517円 体育館掃除 60000円 リーフレット 8000円 合計 107517円</p> <p>従たる事業所 3か所 ○ま～ぶる 定員 10名 登録者数 13名(新規登録 1名) 作業工賃 円 各種イベントや販売会に出展し、利用者の活動意欲へとつながった。 ○たけはら 利用定員 10名 登録者数 19名(新規登録 名) 生活動作のリハビリを目的とした利用が増え、機能維持の向上につながった。</p> <p>○Siosai 利用定員 10名 登録者数 8名 低刺激の環境で、個々のペースに合わせた活動を提供した。</p> <p>定期的に毎月利用されている方が安心して宿泊できるよう必要な支援を提供した。 利用人数 14名 1日平均 2名 ※H30.5.1～12.28は2床 年間 310日(3月現在) 月平均 25日稼働</p> |
|--|---|

30年度 総合安心センターはるかぜ 事業報告書

●30年度 事業計画と取り組み

【居宅介護等事業】

24時間居宅介護等サービスを提供するとともに、既存の居宅介護等事業所では支えきれないニーズについても応えていく事により、障がいのある方が安心して暮らしていけるようにします。

提供するサービス・・・居宅介護、行動援護、重度訪問介護、同行援護

【地域移行・定着支援事業】

施設に長期入所されている方や精神科病棟に長期入院されている方の地域生活移行をお手伝いするとともに、地域で暮らす障がいをもつ方々とそのご家族が安心して在宅での暮らしが続けられるように連絡体制を確保し、緊急時には相談にのったり、登録書に沿って駆けつけて支援をします。

【短期入所・緊急短期入所事業】

地域の障がいをもつ方とその方々を支えるご家族の休息を目的として、一時的な住まいの場所と生活の質を確保するために必要な支援を提供します。また、緊急時にもご要望に応えられるよう空室を2部屋確保します。

●30年度 経過と成果

【居宅介護等事業】

※居宅介護(身体介護・家事援助・通院介助)利用者・・・7名

※行動援護利用者・・・7名

※重度訪問介護、同行援護利用者・・・1名

【地域移行・定着支援事業】

※地域移行支援利用者・・・0名

※地域定着支援登録者・・・20名

※駆けつけ件数・・・月平均・・・1.6回

【短期入所・緊急短期入所事業】

契約者 73名(内新規契約者15名)

月平均162.75名

1日平均5.35名

1人平均 月2.23日

緊急受入者 17名(内 3名契約なし)

緊急受入者の出口

他施設: 1名 自宅: 15名

病院: 1名(その後、GHへ)

*緊急受け入れ者は48時間以内に会議を開き出口を検討

30年度 のぞみの郷高社 事業報告書

| | |
|---|--|
| <p>事業計画と取り組み 自己選択、自己決定を尊重し暮らしの場や生活スタイルを決めていけるように支援します。</p> <p>【共同生活援助】 かたしお(夜勤体制) * 事業所指定:平成27年6月1日 EAST(夜勤体制) * 事業所指定:29年7月1日</p> <p>岳南居住センターの基盤施設として稼働し始める 8 月 サービスセンターりんくより運営委譲</p> <p>さんぼみち</p> <p>一番館</p> <p>柳沢ホーム の運営管理</p> <p>【その他の事業】 ぽかぽか託児所(法人より委託運営) 法人職員が安心して出産し、育児をしながらか仕事を継続出来るようニーズに合わせて利用しやすい託児所の運営を行ないます。</p> | <p>30年度 経過と成果 個々のニーズに合わせて GH の生活の充実と、外出支援にて余暇の充実に努めました。又、看護師を中心に定期通院の同行や日々の健康面にも気を配りました。</p> <p>かたしお 定員 6名 実利用数6名 (男性6名)知的、精神、身体、自閉 *4月1日から高社入所から1名入居となる EAST 定員 6名 実利用数6名 (男性5名・女性1名)知的・精神・自閉 *4月1日から高社入所から1名入居となる *5月1日から高社入所から2名入居となる *5月21日から高社入所から1名入居となる *8月1日から高社入所から1名入居、りんく 管轄の GH より1名入居となる</p> <p>8月より、さんぼみち・一番館・柳沢の3GHに日中に生活支援員を配置して、日中ホームにて過ごす人のケアを実施 9月より3GHが高社管轄となる</p> <p>さんぼみち 定員 5名 実利用数4名 (男性3名・女性1名)知的・身体 *H31年1月31日、男性1名退所(家人在住の千葉の療養型病院に入院の為) *H31年1月15日男性1名在宅より入居となる</p> <p>一番館 定員 3名 実利用数3名 (男性2名・女性1名)知的・精神・自閉 ブラダウィリー症候群 *H31年1月7日、りんく管轄の GH より1名入居となる</p> <p>柳沢ホーム 定員 5名 実利用数4名 (男性2名・女性2名)知的・精神</p> <p>外出支援:月平均1回(付き添いあり) 移動支援利用者:9名 金銭管理:さんぼみちの3名以外は自己管理で月々の小遣い制地域交流:(かたしお・EAST:どんど焼き・祭り・スポーツ 大会への参加)</p> <p>法人内3事業所の職員のお子さんをお預かりし保育実施した。 利用総利用人数3名(1歳児 1名 2歳児 2名) 現利用人数1名 *4月2歳児継続児1名 *5月1歳児新規2名 *8月2歳時1名退所 *1月1歳児1名退所</p> |
|---|--|

30年度 ふっくら工房ふるさと 事業報告書

●30年度 事業計画と取り組み

【就労移行支援事業】 定員 14⇒6 名
(10 月定員変更)

・ジョブコーチ支援を基本に就職に向けて一人一人に応じた個別支援を実施し、年度内に 5 名以上の就職者を目指します。

・就労アセスメントの有効性を認識し、関係機関と連携を密にしながら、実施いたします。

【就労継続支援 B 型事業】 定員 66 名⇒54 名
(10 月定員変更)

・多種多様な職種の体験を通じ、地域の方々からの評価や工賃を得ることで「はたらく」ことの喜びを共有できるようにいたします。

・100 名を超えるメンバーさんのニーズにより細やかにこたえられるように事業展開を行っていきます。

【指定特定・指定一般・指定障害児相談支援事業】
・障害があっても自分らしい人生、充実した生活を送っていただくために、丁寧なアセスメントに基づいた計画相談支援や地域相談支援を行います。

【飯山市地域活動支援センター事業】
(飯山市より委託運営)

・生活のしづらさを感じている方々に、地域において自立した日常生活、社会生活を営むことができるように社会参加の場や創作的活動の機会の提供を通じて社会との交流を図ります。

●30年度 経過と成果

【就労移行支援事業】

・3 名の方が一般企業に就職されました。就職前の企業実習から就職、その後の定着支援まで継続して取り組んでおり、現在も安定して働かれています。

・飯山養護学校や関係機関と連携しながら、11 名の方を対象に実施いたしました。

| 就労アセスメント実施対象 | 29 年度 | 30 年度 |
|--------------|-------|-------|
| 飯山養護高等部 3 年生 | 10 名 | 8 名 |
| 在宅等 | 1 名 | 3 名 |

【就労継続支援 B 型事業】

・新規業務を 1 件開拓いたしました。
・B 型事業よりメンバーさんが 4 名企業へ就職することができました。移行事業と同様に、就職前の企業実習から就職、その後の定着支援まで継続して取り組んでおり、現在も安定して働かれています。

| | 29 年度 | 30 年度 |
|---------|-------|-------|
| 一般就職 | 0 名 | 4 名 |
| A 型への就職 | 3 名 | 1 名 |

・10 月 1 日に中野市に未来工房つむぎ(就労継続支援 B 型)を開所し、メンバーさんのニーズや意思を尊重した上で、15 名が移動されました。また発達サポーターズねくすと(就労継続支援 B 型)に 16 名が移動されました。
3 月 31 日現在、B 型メンバーさんが 68 名になり、今まで以上にきめ細やかな支援ができるようになりました。

【指定特定・指定一般・指定障害児相談支援事業】
・10 月に未来工房つむぎに事業を変更いたしました。(報告については未来工房つむぎの報告書に記載)

【飯山市地域活動支援センター事業】

・10 月より発達サポーターズねくすとに管轄が変更になりました。(報告については発達サポーターズねくすとの報告書に記載)

●30 年度 事業計画と取り組み

【自立訓練事業】定員 6 名

『アセスメント』と『アウトリーチ』

ご本人が長年抱えてきた生きづらさ、困り感を真摯に受け止め、専門的な視点からのアセスメントを丁寧に行い、個々人に合った適切なコミュニケーション方法を見つけ出します。日中に限らず生活全般にアプローチし、ニーズを的確に捉え、生活の充実を目指します。

また、ご本人の困り感を数値化するなどして見える化し、ご本人を取り巻く支援者との協力体制を構築することで、この地域に広汎性発達障害の理解者を増やす取り組みにも力を入れていきます。

【生活介護事業】定員 20 名

『成功体験』と『充実』

安心、安定した生活を大切にしながらも、ご本人のストレングスに着目し、その力を様々な場面で発揮できるような活動を提供いたします。施設内での活動に止まらず、地域へ飛び出し、数多くの成功体験から日々の充実感を高めていただくことを目標とします。

また、社会参加をキーワードとしたさまざまな活動を提供し、地域の中で当たり前活躍する姿を展開していきます。

【就労継続支援B型事業】定員 14 名

『構造化』と『自己肯定感』

丁寧なアセスメントに基づき、ご本人の想いに寄り添い、構造化をベースとしたご本人にわかりやすい作業環境を準備し、本来持っている力が発揮できるよう支援いたします。工賃を獲得することや周囲からの評価を通じて日々の充実感、自己肯定感を高めていただくことを目的とします。

【飯山市地域活動支援センター事業】

(飯山市より委託運営)

生活のしづらさを感じている方々に、地域において自立した日常生活、社会生活を営むことができるように社会参加の場や創作的活動の機会の提供を通じて社会との交流を図ります。

●30 年度 経過と成果

【自立訓練事業】実利用人数 6 名 平均 2.4 人/日

個々の抱えている生きづらさや困り感と向き合い続けた事で、課題解決の道が見え、生活の幅が広がるケースが増えました。

・新たなコミュニケーションの手段を回数重ねてお伝えし習得、現在も継続的に使用しています。(PECS)

・他事業所への移行を丁寧に進め、ご本人の負担を最小限に抑えた事でアセスメントの正確さが確認できました。(同様に他事業所からの移行も実施)

・要請のあった他事業所へのアウトリーチを 2 件実施しました。

・見える化の一端として、ご本人の障がい特性シートの作成を 3 名分完成させ、会議等で使用いたしました。

・生活場面全般へのアプローチとして、2 家族のお宅に訪問。内 1 家族は 10 回以上の訪問を実施しました。

【生活介護事業】実人数 19 名 平均 14.7 人/日

・ご本人の安定をベースに様々な活動に参加出来る様に構造化を用いて社会参加を促し、笑顔や新たな表情を見る事に繋がりました。

・月 1 回の外出企画を通して、活動の幅を広げることができました。また、作業面ではご本人にあった作業方法を提案していくことで自信を持って作業に取り組むことができました。2 名の方の通所利用日増。

・通例の行事として健康診断を提供し、それぞれにスケジュールを用意する事で前回できなかった検査項目をクリアする方々も出てきました。

・わんすてつぷ廃止(9 月)に伴い、丁寧にご本人の特性に準じて引越し準備を行った事で、総勢 7 名の利用者さんを負担なく移行することができました。

【就労継続支援B型事業】実人数 17 名 平均 8.4 人/日

・H30.10/1~ふっくら工房より、次のステージを目指すために「緩やかに引退を目指すメンバーとより静かな環境で自分らしい働き方を必要とするメンバー」を中心にご本人、ご家族、相談員さんと会議を重ねながら、16 名の方が緩やかな移行を行うことができました。

・年齢や体力、身体状況などお一人おひとりのペースに合わせた作業内容や環境を整え、仕事を通して自己肯定感を高められるように支援を進めてきました。同時に 65 歳以上の高齢メンバーの方々には自信を持って活躍できる次のステージの提案や見学を行いました。

【飯山市地域活動支援センター事業】

登録者 26 名 1 日平均 5~6 名

・年 6 回相談事業所、市役所との運営会議を実施しました。運営会議では福祉サービスを利用していない地活利用者 4 名の方の情報共有を飯山市、基幹相談と行う事ができ、課題が整理できました。

・提供内容 (飯山市の出前講座、ちぎり絵、アート教室、ヨガ、食事作り、外食企画、みんなネット等)

30年度 北信圏域障害者総合相談支援センター事業報告書

○30年度 事業計画と取り組み

【3障害児・者相談支援事業】

- ① ライフステージが途切れないように、家族・関係機関と連携し総合的な相談支援を行う。
- ② 自立支援協議会の事務局を担い、安心して暮らせる地域作りを目指す。

【特定・指定一般・指定障害児相談支援事業】

- ③ サービス等利用計画の作成やより質の良いプランやモニタリング報告書作成に繋げる。

【地域あんしんコーディネーター事業】

- ④ 24時間・365日対応できる相談支援機能として地域あんしんコーディネーターを市町村予算で2名配置(内支援センターには1名配置)

【就業・生活支援事業】

- ⑤ 一般企業で働きたい人、働き続けたい人の相談・定着支援を様々な機関と連携し行う

○30年度経過と成果

【3障害児・者相談支援事業】

- ① 子どもから大人までライフステージが途切れない支援の継続を行うことができた。

| | |
|-----------------------|-----------------------|
| 29年度相談支援実人数 1238人 | 30年度相談支援実人数 931人 |
| 29年度相談支援述べ件数 5609人 | 30年度相談支援述べ件数 3614人 |

- ② 6市町村を主体に各関係機関と活発な連携や協議の場が開催できている。自立支援協議会の下支えとして引き続き事務局を担う。

| | |
|-----------------------|-----------------------|
| 29年度自立支援協議会回数 210回 | 30年度自立支援協議会回数 233回 |
|-----------------------|-----------------------|

【特定・指定一般・指定障害児相談支援事業】

- ③ 個別ケースの課題から地域課題も含め、広げるためにネットワーク会議やGSV研修に積極的に参加した。

| | |
|-------------------------|-------------------------|
| 29年度相談支援専門員 5人 | 30年度相談支援専門員 3人 |
| 29年度(者)の計画作成実人数 322人 | 30年度(者)の計画作成実人数 209人 |
| 29年度(児)の計画作成実人数 30人 | 30年度(児)の計画作成実人数 13人 |

【地域あんしんコーディネーター事業】

- ④ コーディネーター2名の人件費を6市町村からの予算を頂き、緊急時の対応や危機が起きないようにあんしん台帳を作成することで地域の土台作りを進めてきた。

| | |
|--------------------------|---------------------------|
| 29年度述べ人数182人 | 30年度述べ人数113人 |
| 29年度相談件数189件 (うち緊急9件) | 30年度相談件数122件 (うち緊急 9件) |

【就業・生活支援事業】

- ⑤ 就業相談の窓口として主にハローワーク、基幹相談と連携しながら機能している。福祉サービスを利用されている方々の就職したいニーズにも相談支援専門員と連携し支援ができた。

【中野市精神障がい者事業】

⑥ 家から一歩出る居場所の提供を通じて、お昼作り・おやつ作りの活動をメインに次のステージに繋ぐ支援を行う。

【中野市精神障がい者事業】

⑥ 週5日の昼食作り・月2回おやつ作りを活動の柱としている。最近はパン講習も取り入れ興味や活動の幅が広がった。メンバーの希望を聞きながらその日の体調に合わせ利用して頂いている。

| | |
|-----------------|-----------------|
| 29年度就職者数30件 | 30年度就職者数 20件 |
| 29年度職場実習斡旋27件 | 30年度職場実習斡旋28件 |
| 29年度相談支援件数4438件 | 30年度相談支援件数1649件 |

| | |
|-----------------|-----------------|
| 29年度登録者32名 | 30年度登録者32名 |
| 29年度延べ利用者数1422人 | 30年度延べ利用者数1604人 |

30年度 北信圏域障害者生活支援センター(やまとサービスセンター・かすたねっと・コンパス)
事業報告

●30年度 事業計画と取り組み

やまとサービスセンター

【居宅介護事業】地域で暮らす方が安心して過ごせるように在宅での直接的なサービスを提供する。

手厚い支援が必要な方に対し、専門性の高い支援を行う。

登録者数 29年度 30年度

| | | |
|------|-----|-----|
| 居宅介護 | 37名 | 42名 |
| 行動援護 | 40名 | 40名 |
| 同行援護 | 6名 | 8名 |
| 通院介助 | 24名 | 35名 |
| 重度訪問 | 2名 | 1名 |

利用回数

| | | |
|------|-------|-------|
| 居宅介護 | 3337回 | 3708回 |
| 行動援護 | 2998回 | 3189回 |
| 同行援護 | 231回 | 250回 |
| 通院介助 | 247回 | 341回 |
| 重度訪問 | 120回 | 52回 |

【移動支援事業】障がいのる方のニーズに合わせた、外出又は余暇支援を行う。

| | | |
|------|-------|-------|
| 登録者数 | 227名 | 245回 |
| 利用回数 | 1885回 | 1880回 |

【タイムケア事業】個々に合った環境で過ごせる場を提供する。

| | | |
|------|-------|-------|
| 登録者数 | 116名 | 203名 |
| 利用回数 | 2083回 | 2295回 |

【日中一時事業(飯山市)】個々に合った環境で過ごせる場を提供する。

| | | |
|------|------|-------|
| 登録者数 | 27名 | 31名 |
| 利用回数 | 785回 | 1111回 |

【障害児児童自立支援事業(中野市・木島平村)】

個々に合った環境で過ごせる場を提供する。

| | | |
|------|------|------|
| 登録者数 | 14名 | 14名 |
| 利用回数 | 593回 | 320回 |

【短期入所事業】障がい児を対象に日常生活の支援を行う。

| | | |
|------|-----|-----|
| 登録者数 | 4名 | 8名 |
| 利用回数 | 15回 | 37回 |

【福祉有償運送】公共交通を利用しての移動が困難な方を対象に有償で行う車による移送サービスを適切に運営する。

| | | |
|------|-------|-------|
| 登録者数 | 135名 | 127人 |
| 利用回数 | 4976回 | 5545回 |

●30年度 経過と成果

【居宅介護事業】

家事援助身体介護

ご家族の高齢化に伴いご利用される方、将来に向けて自身でやれること増やすなど、利用者数は減ることはない。回数、時間帯など定期的な会議で確認させていただきながら概ねご希望の回数、時間で支援している。他居宅介護事業所のご利用が困難なケースが多く、すれ違いを減らす為ツールなど使用するケースもある。

行動援護

行動上の課題について迅速に支援計画をたて、支援できている。

同行援護

計画的に職員を研修にだし、従業員の確保をおこなった。ご利用も安定的に頂いている。

通院介護

ニーズは増加している。ご利用者の高齢化や僻地で交通の不便さも増加の要因としてある。

重度訪問

定期的な支援を継続した。

【移動支援事業】

1対1支援、グループ支援の整理ができ、余暇外出の支援が増えている。また路線バスの使用方法の練習としても利用があった。

ふれんずの回数を増やし、お断りの件数を軽減した。

【タイムケア 日中一時 障害児自立支援事業】

放課後等デイサービス事業所は出来ているが、新規の利用や、急な利用の想定で昨年同様登録者数は増加している。お子さんに関しては放課後等デイサービス等の安定的な事業展開の中であるが、電話1本で簡易的に使えるサービスへのニーズは高い。

【短期入所事業】

見学、体験は数件ある。定期ご利用のお子さんが増えた為、定員を2名から3名に増員した。

【福祉有償運送】

登録車の増車

遠距離(栄村 山の内町)の送迎、通勤通学に伴うご依頼でお断りするケースや市町村と協議中の案件は継続で課題である。送迎の際に支援が必要な方に対しては、居宅支援を適用して頂くことにより計画的な運営を行えるよう相談支援専門員の方に説明をおこなっている。

かすたねっと

【生活介護 児童発達支援事業・保育所等訪問支援】

重度心身障がい児・者の方が日中通う場として、医療と連携しながら、リハビリや個別活動、社会参加の場を提供していく。

保育所等を訪問し、集団生活への適応の為専門的な支援を行います。

29年度 30年度

| | 29年度 | 30年度 |
|----------|------|------|
| 生活介護 | 13名 | 12名 |
| 児童発達支援 | 2名 | 2名 |
| 保育所等訪問支援 | 0名 | 4名 |

コンパス(30年度 6月開所)

【放課後等デイサービス】

29年度 30年度

| | 29年度 | 30年度 |
|----------------|------|------|
| 放課後等 デイサービス | | 12名 |

その他

【支援会議】

29年度 30年度

| | 29年度 | 30年度 |
|------|------|------|
| 総会議数 | 739回 | 748回 |
| 参加 | 507回 | 566回 |
| 欠席 | 232回 | 180回 |

【生活介護 児童発達支援事業】

日常の支援を日々確認しながら、外部委託による活動を提供することによりメリハリのある風景ができつつある。地域の病院の協力でリハビリも定期的に行っている。

児童発達支援では未就学のお子さんに対し発作等に留意しながら日常生活の基本動作、集団生活への適応を目指しご利用いただいた。

保育所等訪問支援では児童発達支援事業から保育園にスムーズに繋げることができた実績より、新規での希望のお子さんあり、増加傾向である。

【放課後等デイサービス】

平成30年度6月に開所。地域の児童館の中に併設されインクルージョンの場として期待がある。児童館の行事に参加し交流を深めている。また将来に向けスキルの習得、療育的な視点から支援を行っている。

専門職とし、公認心理師(臨床心理士)を採用。ご利用希望は増加。

【支援会議】

年々増加傾向にあるが、相談センター、計画相談員と相談し、参加や情報共有のあり方を見極めている。

平成31年度(令和元年) 北信圏域障害者生活支援センター 事業計画書

地域で安心して暮らす事ができ、充実した地域生活が継続できるようにご家族や相談員、学校、関係機関等と連携しながら個別支援計画に基づき、生活支援や学童支援及び余暇支援を行ってまいります。

また個々の様々なニーズにお応えできるように、事業所の役割を常に意識し、継続的な事業が実施できるよう取り組んでまいります。

□ やまとサービスセンター (居宅事業 地域生活支援事業 児童短期入所)

●地域で暮らす方が安心して過ごせるように、在宅での直接的なサービスを提供する。

…家事援助 身体 介護 重度訪問介護 児童短期入所

●障がいのある方のニーズに合わせた、外出又は余暇支援を行う。

…移動支援 福祉有償運送 通院介助

●個々に合わせた環境で過ごせる場を提供する。

地域の特性やご利用者の状況に応じて柔軟な形態での過ごし場の提供を行う

…地域生活支援事業《タイムケア 日中一時(児童)》

●手厚い支援が必要な方に対し、専門性の高い支援を行う。

…行動援護 同行援護

② コンパス(放課後等デイサービス 保育所等訪問支援)

●集団活動への適応や自立を目指す、学童の場を提供する。

…放課後等デイサービス※4月1日よりコンパスの従たる事業所をやまととして定員15名に拡大

●就学前のお子さんに対し、保育所等にて、助言 相談 支援を行う。

…保育所等訪問支援

③ かすたねっと (生活介護 児童発達支援事業)

●重症心身障がい児・者の方が日中通う場として、医療と連携しながら、リハビリや個別活動、社会参加の場を提供していく。

…生活介護 児童発達支援事業

④ 職員の資質向上

●従事者の資格要件を計画的に研修にて満たしていく。

●事業所として日々の課題に即した研修を提案 実施していく。

●関係機関と連携しながら個別支援計画を作成し、実施できる専門性と、チームワークの尊重、社会人としての立ち居振る舞い等の人間性を日々養う。

⑤ その他

●福祉計画にある児童発達支援センターの在り方について協議していく。

●開所日を在宅のニーズに応えられるよう、盆、年末年始、長期休みに関わらず、必要性を見極めながら検討していく。

平成 30 年度 サービスセンターりんく事業報告書

| | |
|---|--|
| <p>●30年度 事業計画と取り組み</p> <p>【共同生活援助事業】</p> <p>1、グループホームの支援ではホームの見直しや特色を作っていく。より良い生活が送れるよう、利用者と関係者と相談して終の棲家でない分岐点を目指す。</p> <p>(1)男女が混合だったこれまでのホームから男女を分けたホーム化。</p> <p>(2)介助の必要が高い利用者が生活しやすいホーム作り。</p> <p>(3)老朽化の進んだホームの見直し。</p> <p>2、空きホームに関しては、利用者が今より健康的な生活や安全に暮らせるような環境にあるホームへの提案に利用する。また、入所施設から地域への暮らしができるよう受け皿を基本にする。</p> <p>3、サテライト型住居 2ヶ所 2名</p> <p>4、余暇支援では外食、必要物品の購入だけでなく、その人の余暇の提案をしていく。</p> <p>5、健康管理</p> <p>(1)検診を年 1 回行い、受診に繋げていく。</p> <p>(2)介護保険利用状況 利用者26名中介護保険対象者4名と15%が高齢者となっている。</p> | <p>●30年度 経過と成果 平成 31. 3. 31</p> <p>【共同生活援助事業】</p> <p>○のぞみの郷高社へ運営の移行 3 ホーム</p> <p>○常岩の里ながみねへ運営の移行 4 ホーム</p> <p>○グループホーム 7ヶ所 3月末現在 男性 11 名 女性 15 名 計 26 名 平均 年齢 53 歳 50 代 6 名、60 代 6 名、70 代 3 名</p> <p>(1)男女混合のホームがいくつかある中でも、日中に支援ができないホームに住んでいる方に、女性のホームへの提案と体験を行った。女性のホームに移ることができた(1名)</p> <p>(2)住んでいる方を見直しをした。より安全であったり、より自立した生活ができる生活の場の提案をした。2名移ることができた。介助、支援の介入の必要が高い方が、数か所のホームに点在していた状況から、生活しやすいホーム作りを行ったことで、必要なホームに支援員を 2 名体制に出来た。</p> <p>(3)住んでいる方々には、自分の将来を少しずつ考えていけるよう聴き取りやアパート見学、現在の生活費の収支の説明等おこなった。入居している 6 名の内、5 名は次の生活に進んだ。残る1名は他のホームを見学予定。老朽化の進んだホームは、残る 1 名の生活場所が決まったところで廃止とする。 (5/20 廃止予定)</p> <p>2、ご本人の言葉と同時に、今の生活状況を見て、その方にあった暮らしの場を提案した。 4名がより安全な、落ち着いて生活できるよう支援ができるホームに移った。また、入所からアパート型グループホームに 1 名入居。グループホームから入所に 1 名の動きがあった。</p> <p>3、1名平成 30 年8月末終了し、本人がアパート契約をする。</p> <p>4、買い物、外食への個別付き添い(移動支援)。月に1度は土日や平日、通所先からの帰宅後に計画。 その人の余暇の提案については、どんなことを楽しいと感じているのか、どんな時間が落ち着くのか等、情報収集が出来ずに取り組むことができなかった。</p> <p>(1)市の検診・・・9名 通所先・・・13名 就労先・・・1名 未実施・・・3名(本人が希望せず2名。病気治療中1名) 市町村のがん検診も希望者は行っている。</p> <p>(2)65 歳以上は(介護保険適応者)4名。 内介護保険申請者2名 {介護度} 介護1・・・ 1名 介護3・・・1名 (デイサービス利用者・・・2名)</p> |
|---|--|

平成 30 年度 サービスセンターりんく事業報告書

*グループホームでの看取り

【短期入所事業】

マンツーマンの支援を期待する地域の声に応えることはりんくでは困難となる中、しかしその声にも応えていくために他事業所と連携を図り、事業の存続を検討していく。

【指定特定・一般相談事業】

相談支援専門員、地域生活推進員を配置し、各種相談を受け、地域生活が安心して送られるよう支援する。

*訪問診療・看護・介護保険を利用し、ながみねと協力しホームでの看取りを行った。

*訪問診療・看護を利用、毎週 1 回の受診を行い、できるだけ今までの生活を続けられるよう支援。H31.2月に1ヵ月入院。一時退院となるが 3/15 に再入院。3/20 亡くなる

【短期入所事業】

エムハイツ 平成 30 年 5 月 12 日廃止

ホームさんぽみち 平成 30 年 9 月 21 日廃止

ホームかおる荘 平成 30 年 12 月 31 日廃止

利用していた方については、他事業所の短期入所に繋げる。

【指定特定・一般相談事業】

特定相談は相談員 2 名体制 25 件程の計画相談行う

一般相談は 1 件のみ。推進委員 2 名。

実際の動きは0。生活も安定され、その 1 件も年度内で終了となっている。

30年度 未来工房つむぎ 事業報告書

●30年度 事業計画と取り組み

【就労継続支援 B 型事業】 定員 20 名

・ふっくら工房ふるさとをご利用されているメンバーさんや中野市及び山ノ内町方面の方々を中心に受け入れを順次進めています。

・多種多様な職種の体験を通じ、地域の方々からの評価や工賃を得ることで「はたらく」ことの喜びを共有できるようにいたします。施設外就労も取り入れ、就職するスキルを身につけられる、就職にむけた支援に特化したサービスを個別に提供していきます。

【指定特定・指定一般・指定障害児相談支援事業】

・障害があっても自分らしい人生、充実した生活を送っていただくために、丁寧なアセスメントに基づいた計画相談支援や地域相談支援を行います。

・相談員を増員することにより、より充実した相談支援ができる体制を整えます。

●30年度 経過と成果

【就労継続支援 B 型事業】

・10 月からの開所に合わせて、メンバーさんのニーズや意思の確認を個別に行い、関係機関と連携しながら準備を進めることができました。ふっくら工房ふるさとから 15 名のメンバーさんが移動され、新規に 1 名の利用開始がありました。メンバーさんが混乱することなく引っ越しや移動を進めることができました。

・業務についてはふっくら工房ふるさとと連携しながら、下記の業務を引き継ぎ、できる限り施設外就労を軸にした業務を組み立てることができました。

いで湯の里清掃

中野プラスチック清掃

北信合同庁舎清掃

神農素 リサイクル業務

きのこキャップ組み立て

果実企画 ドライフルーツ製品箱折及びシール貼り業務 他

・個別の企業実習を 1 件実施することができました。

【指定特定・指定一般・指定障害児相談支援事業】

・10 月より相談事業をふっくら工房ふるさとから未来工房つむぎに名称及び場所の変更を行いました。

・相談支援の充実をはかるために、相談支援専門員を 4 名から 5 名に増員いたしました。ケースの共有を行うことで相談員一人で抱え込まずに相談しながら仕事に取り組むことができています。

・計画相談支援

219 名(障害者:189 名、障害児 30 名)

・一般相談支援

地域移行支援:2 名、地域定着支援:12 名